

池田亮司 新作インスタレーション展 「datamatics」

data.tron (データ・トロン)

data.film [n^o1-a] (データ・フィルム)

test pattern [n^o1] (テスト・パターン)

オーディオビジュアルコンサート

datamatics [ver.2.0] (データマティクス)

山口情報芸術センター（YCAM）では、池田亮司による新作のインスタレーション展「datamatics」（データマティクス）を開催します。池田亮司は、コンピュータによる先端的音楽表現で世界を牽引する第一人者として知られ、またアーティストグループ、ダムタイプのメンバーとして活躍。さらにウィリアム・フォーサイス、伊東豊雄、杉本博司など、第一線のアーティストたちとの多彩なコラボレーションによる活動も展開しています。今回は、YCAMでの2度にわたる滞在により制作した新作インスタレーションを含む3作品を1カ所で同時公開する、池田亮司の世界初の個展となります。

【会期】 2008年3月1日（土）～5月25日（日）

【時間】 月-金12:00-19:00 土日祝10:00-20:00 (*3/1はスタジオAのみ16:30閉場)

【会場】 山口情報芸術センター スタジオA、B 入場無料

【展覧会オフィシャルサイト】 <http://datamatics.ycam.jp>

■ オープニングイベント

オーディオビジュアルコンサート「datamatics [ver.2.0]」（完全版）

日時：2008年3月1日（土）19:30開演（30分前開場）

会場：山口情報芸術センター スタジオA（全席自由／200名限定）

料金：<前売> 一般 2000円 any会員／特別割引 1700円 <当日> 2500円

プレイガイド発売：1月20日（日）

インターネット <http://www.ycfcp.or.jp/>（24時間受付） *要事前登録

電話／窓口 チケットインフォメーション TEL : 083-920-6111 [10:00-19:00 *火曜休館]

■ 報道関係者向け内覧会

日時：2008年3月1日（土）13:00 開始 14:30終了予定 *当日はホワイエにお集りください。

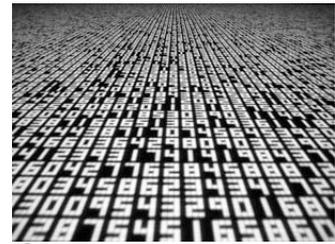
本展概要について、プロジェクトキュレータが説明いたします。

ご希望の方は、2月26日（火）までに担当へご連絡ください。

主催：財団法人山口市文化振興財団 | 後援：山口市、山口市教育委員会 | 協力：在日フランス大使館 | 共同制作：ル・フレノア国立現代芸術スタジオ、ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター、Forma | 協賛：ミックスウェーブ株式会社 | 助成：財団法人朝日新聞文化財団、平成19年度文化庁芸術拠点形成事業 | 企画制作：山口情報芸術センター | 共同開発：YCAM InterLab | プロジェクトキュレータ：阿部一直（YCAM）

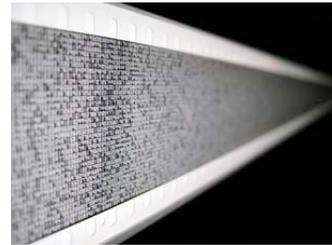
池田亮司／新作インスタレーション展「datamatics」

われわれの世界において、情報として立ち現れる以前に膨大に横たわる不可視のデータの海。その知覚化／美学化／形式化を探求するプロジェクト「datamatics」から、池田亮司／新作インスタレーション展として、「data.tron」「data.film[n°1-a]」「test pattern [n°1]」(YCAM委嘱作品)の3作品を同時公開します。



「data.tron」 [prototype]
© ryoji ikeda

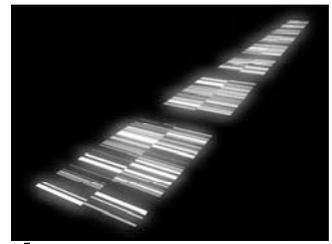
スタジオA＝ 巨大なプロジェクション画面によるオーディオビジュアルインスタレーション「data.tron」と、35mmフィルムの物質再現の限界まで精緻に突き詰めたインスタレーション「data.film [n°1-a]」。スタジオの壮大な空間の中で、対比的に構成された展示を行います。



「data.film」 © ryoji ikeda

スタジオB＝ 本展のための新作インスタレーション「test pattern [n°1]」(YCAM委嘱作品)。映像とサウンドの同期と変化が生み出す、メディアの再現性と人間の知覚認識の限界を突き詰める空間の実験作品。

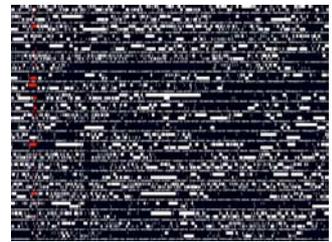
オープニングイベント＝ 公開初日となる3月1日(土)には、音楽-映像における時間-空間と、われわれの知覚-認識との緊張関係を極限的な手法で追求するオーディオビジュアルコンサート「datamatics [ver.2.0]」(完全版)の日本初演を行います。



「test pattern [n°1]」 © ryoji ikeda

これらの作品は、ル・フレノア国立現代芸術スタジオ(フランス)、ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター(フランス)、Forma(イギリス)との共同制作になります。

※ 本展は、アーティストが、2007年8月と2008年2月に山口情報芸術センターにて滞在制作を行い発表する新作で、そのうち「test pattern [n°1]」は世界初公開となります。



「datamatics [ver.2.0]」
© ryoji ikeda

池田亮司 Ryoji Ikeda <http://www.ryojiikeda.com/>

日本を代表する電子音楽作曲家／アーティスト。超音波、周波数、そして音そのものの持つ本質的な特性の細部に徹底してこだわる池田の作品は、音の物理的特性や人間の知覚との因果関係、音楽としての数学的類推、時間、空間を活用する。池田は、コンピュータとデジタルテクノロジーを極限まで駆使し、サウンドエンジニアリングおよび作曲において、独特の微視的方法を発展させている。現在、パリ在住。

1995年以来池田は、音と音響学、卓越したイメージを統合したコンサート、インスタレーション、レコーディングなどで極めて精力的に活動を展開している。作品では、音楽、時間、空間が数学的な方法で形作られており、池田は音をその物理的特性から人間の知覚へ接近させ、その関係を明らかにすることで、感覚としての音を探究している。ビジュアルメディアとサウンドメディアにおける領域横断的な活動を精力的に展開し、コンピュータとデジタルテクノロジーを極限まで駆使したオーディオビジュアルコンサートである「datamatics」、「C4」、「formula」は、われわれの未来のマルチメディア環境や文化に対し、独特の方向性を示唆している。絶賛されたインスタレーション「data.tron

[prototype]」や「data.film [n°1-a]」は、アートシーンに池田の「ウルトラミニマリズム」の美学を依然として発信し続けている。

最新のシリーズ「datamatics」は、映像やオブジェ、サウンド、ニューメディアの作品からなる長期プログラムであり、そこではデータがテーマとして、また素材として、実在の抽象的な捉え方、つまりデータにより世界をエンコード、理解、制御する方法を探るべく、取り扱われている。池田は、ライブパフォーマンス、サウンドインスタレーション、アルバムのリリースなどを通じ、最も革新的な現代作曲家の一人として称賛されている。アルバム「+/-」、「0°C」や「matrix」は、サインウェーブやグリッチ、ホワイトノイズを用い、電子音楽の新たなミニマリズムを開拓した。2005年には、datamaticsシリーズの一環として、高い評価を受けた7枚目のソロアルバム「dataplex」をリリース。同年、池田の主要作品の初の完全版カタログ「formula」が出版されている。

活動の幅広さは、「cyclo」プロジェクトでのカールステン・ニコライとのコラボレーションや、振付家ウィリアム・フォーサイス/フランクフルト・バレエ団、アーティストの杉本博司、建築家の伊東豊雄、アーティスト集団ダムタイプとのコラボレーションからもうかがえる。

池田は、つねに世界の数多く一流フェスティバルや展覧会で、展示や公演を行っている。

[the Australian Centre for the Moving Image (2005/メルボルン/オーストラリア)、MIT (2006/マサチューセッツ/USA)、ジョルジュ・ボンピドゥー国立芸術文化センター (2004、2007/パリ/フランス)、La Villette (2002/パリ/フランス)、Sónar (2006/バルセロナ/スペイン)、Architectural Association (2002/ロンドン/イギリス)、パーピカン・センター (2006/ロンドン/イギリス)、テート・モダン Turbine Hall (2006/ロンドン/イギリス)、Irish Museum of Modern Art (2007/ダブリン/アイルランド)、Auditorium Parco della Musica (2003/ローマ/イタリア)、NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (2005/東京)、東京国際フォーラム (2006/東京)、Art Beijing (2007/北京/中国)、Göteborg Biennial (2003/ヨーテボリ/スウェーデン)、Mutek Festival (2007/メキシコシティ/メキシコ)、ル・フレノア国立現代芸術スタジオ (2007/トゥルコワン/フランス) など。]

受賞歴：2001年アルスエレクトロニカ(リンツ/オーストリア)において「デジタルミュージック」カテゴリーでGolden Nica 賞受賞。2003年World Technology Award最終選考。

■ ワークショップ「Walking Around Surround」

音の出ている複数のスピーカーを、同時に参加者が一人一人別々に持ち歩きながら全体の「空間の響き方を変化させる」という体験を通じて、空間と音響の関係を探るオリジナルワークショップ。

担当：YCAM 教育普及スタッフ 入場無料 協力：YCAM InterLab

*日時、申込方法等詳細は決まり次第、ウェブにて公開いたします。

【お問い合わせ】

山口情報芸術センター

担当：福田(ふくだ) : miki@ycam.jp 渡部(わたなべ) : rina@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町 7-7

TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

<http://www.ycam.jp/>

展示・上演作品解説

- data.tron -

一直線上にいくつの点があるか？

数の数とは何か？

いかにしてランダムなものを真にランダムであると検証できるか？

data.tron と **data.film** は、そうした問いを探求するアートプロジェクト **datamatics** の一環です。見る者は、0と1の間に広がる無限の中で、巨視的かつ微視的に膨大なデータの宇宙を体験することになるでしょう。

data.tron は、純粋数学や膨大なデータの組み合わせによって構成される映像と、それとは対照的な微細なサウンドによるオーディオビジュアル・インスタレーション作品です。巨大に映し出された画面において、各ピクセルは厳密な計算と配列により、グリッド集積体として二次元表象に完全に最適化され、そして見る者との物理的距離によって、純粋な光のムーブメントとして三次元体験へと変換されます。さらに、膨大な演算ステップ数の高速処理による圧倒的なスピードと、それを監視するように刻まれるサウンドとの対比と同期は、われわれ見る者の知覚を最大限に高め、存在や身体全体が作品の中に没入することになります。



© ryoji ikeda

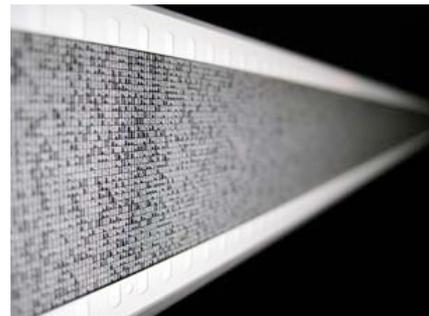
コンセプト・コンポジション：池田亮司

コンピュータグラフィクス：松川昌平

共同制作：ル・フレノア国立現代芸術スタジオ、Forma
<2007年作品>

- data.film [n°1-a] -

data.film は 35mm フィルムによるインスタレーションです。フィルム上の画像は厳格な数学に基づいており、純粋で膨大なデジタルデータは、物質としてのフィルムの微視的限界レベルまで精緻にプリントされ、高輝度の LED ライトボックスにマウントされています。それは、光の水平線のような特異なプロポーション（幅 1000cm 高さ 4cm 奥行 5cm）を形成しており、見る者が作品に対峙した時、その膨大なデータを巨視的に体感し、さらに近接した時には、その圧倒的な世界を微視的に知覚・認識することができます。



© ryoji ikeda

コンセプト・コンポジション：池田亮司

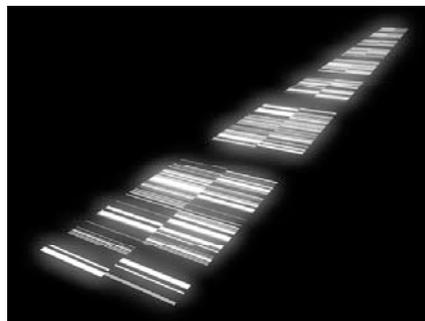
コンピュータグラフィクス・LED ライトボックスデザイン：松川昌平
35mm フィルム現像・プリント：Color by Dejonghe n.v.

共同制作：ル・フレノア国立現代芸術スタジオ、Forma
<2007年作品>

- test pattern [n°1] -

池田亮司の新プロジェクト **test pattern** は、現在彼が取り組んでいるプロジェクト **datamatics** と、相関関係にあります。**test pattern** は、いかなるデータも、2つの形式「バーコード」と「0/1 バイナリー」に変換するシステムであり、その応用を通じて、装置の性能の臨界点と、われわれ人間の知覚の閾値との関係を考察するアートプロジェクトです。

その第1弾であるオーディオビジュアル・インスタレーション作品 **test pattern [n°1]** は、サウンドからリアルタイムに変換され、生成された視覚パターンによって、装置と人間に対してある種のテストを促します。8台のモニターと16台のスピーカーが、暗い空間に一直線上に配置され、その画面の配列は高周波のシグナルに同期しながら暗闇の中で鮮烈に明滅します。グリッド状にマッピングされた16チャンネルのサウンドは、空間を鋭利に切り裂きながら移動し、モノトーンのラインからなる整然としたパターン映像へと即時に変換され続けます。



© ryoji ikeda

瞬間的に、毎秒数百フレームを超えるほど高速に変化し続けることで、装置に対してはある種の動作性能テストを強要し、見る者に対しては知覚反応テストを促します。われわれはただテストされるべき被験者として、その場に居合わせることになるでしょう。

※同プロジェクトの一環として、同コンセプトに基づくCD「**test pattern**」が2008年2月25日に独りレベル raster-noton より発売されます。

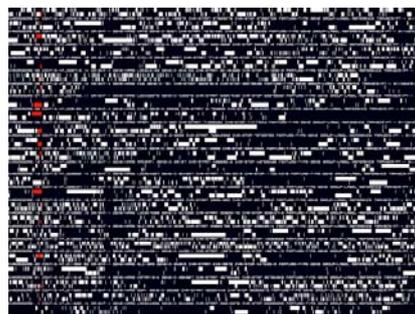
コンセプト・コンポジション：池田亮司
プログラミング・ソフトウェア開発：徳山知永
<2008年作品> YCAM 委嘱作品

- datamatics [ver.2.0] -

池田亮司のプロジェクト **datamatics** は、われわれの世界に広がる不可視で多様な実体性をもつ「データ」を知覚するポテンシャルについて探究するアートプロジェクトです。

オーディオビジュアルコンサート **datamatics [ver 2.0]** は完全版として、先行する以前のヴァージョンから、新たにポンピドゥーセンターおよび YCAM により委嘱された第II部のパートが追加されています。

サウンドや映像、ときにはソースコードをも含んだオリジナルの要素は、客観的に脱構築されながら、**datamatics** それ自体の原理が再遂行され、一種のメタ **datamatics** とでも呼ぶべき新たなパートを生み出しています。超高速のフレームレートや変動するビット深度など、サウンド・映像の両要素において、作品における技術的なダイナミクスは、依然われわれの知覚の閾値に挑戦し続けます。



© ryoji ikeda

「**datamatics [prototype]**は、アーティストとして紛れもない池田固有の語法を構築することで、彼の力量の高さを示している。」 - The Wire, 2006

コンセプト・コンポジション：池田亮司
コンピュータグラフィクス・プログラミング：松川昌平、角田大輔、平川紀道、徳山知永

共同委嘱：AV Festival 06, ZeroOne San Jose & ISEA 2006

制作：Forma

共同制作：ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター、YCAM

協力：Recombinant Media Labs <2006-2007年作品>